

今日は、一人の教え子に会いに行った話をします。30年ほど前に勤めた高校で出会った井谷さんです。井谷さんは、22歳の時の事故で頸髄を損傷し、以来重度身体障害者として生活しています。現在は、障害者の地域での自立生活を支えるため、その運営や各種サービスを障害当事者自らが中心となっていく「自立生活センターC I L 星空」の代表を務めています。事務所を訪ねると若い男性ヘルパーさんと共に私を歓迎してくれました。障害者である井谷さんと健康について話がしたいと伝えると、「僕でよければ喜んで！」と、高校生の時と変わらない明るさで、昔話を交えながら話を聞かせてくれました。

重度身体障害のある井谷さんにとっての健康の意味を尋ねると、健康管理の大事さだと即答しました。自立生活を始めようとする人には、いちばん初めにそれを伝えるそうです。施設で暮らす障害のある人の中には、慣れた環境や習慣の中だけで暮らしていて、自分のことを自分で決めることに慣れていない人が多いそうです。施設とは違って、社会に出れば選択の連続で、自分の障害の説明も自分でしなければならず、困ることは多いと聞きました。しかし、困った体験を通して、自分のことを自分で決める力や、自分のことを他者に伝える力が身に付くのであり、失敗から気付いたり学んだりする経験こそがその人の生きる力になるのだそうです。そして、その先に、自立した生活と自分の生き方が見つかるのだと話してくれました。

井谷さんの話は、障害のある人の生活自立の話だったのですが、高校生の皆さんの自立にも通ずる話だと思いました。健康が大事なのは言うまでもありませんが、健康は目的ではなく前提なのだと言います。もっと大事なものは、自分の心身を健康に保った先にある、自分の身体と心を使って、どう自分らしく生きるかなんです、と井谷さんは最後に伝えてくれました。

第2学期終業式にあたり、井谷さんが伝えてくれた「自分の身体と心を使って、どう自分らしく生きるかなんです。」という言葉が北条高校生の皆さんに贈り、式辞とします。

令和6年12月20日

愛媛県立北条高等学校長 渡邊 俊